

するように、より人々に近い存在である「介在者」による人々への伝達に焦点化することによって、人々の生活や心性をよりリアルに描出することが可能になるのではないだろうか。このことは、社会史という領域において非常に重要なことであるように思われる。

【第二部「宗教と教育」セッション】

第二部の「「宗教と教育」セッション」では、岩下誠氏(青山学院大学)によって、「アイルランド国民学校制度はいかにして宗派化したか—non vested schoolに焦点を当てて」と題する研究報告が行われ、それに対する草野舞氏のコメントから議論が展開されていった。岩下氏の発表は、タイトルの通り、アイルランドの国民学校制度が宗派化していく過程をその複雑さと共に描き出すことをねらいとしていた。私はこの時間他の作業に追われていたため、発表内容をここで詳述することができないが、手隙のときにとったノートを頼りに印象的だったことについて書いてみる。

草野氏がコメントの一つとして「この時代、子どもがどういう存在として考えられていたのか」という旨の質問をされていた。国家にとって、それぞれの宗派にとって、子どもとはどのような存在だったのか。こういった子ども観が、学校がどうあるべきかという議論の根幹に関わっているのではないかと、ということが草野氏によって示唆されたと言える。すなわち、学校制度の輪郭が形成されていく過程を、その時代の子どもの観と併せて検討することによって、その複雑さ(今回では、宗派化という過程の複雑さ)を理解することに近づくことができるのではないだろうか、ということである。翻って考えてみると、その時代の子どもの観なるものは、学校がどうあるべきと考えられていたのかを検討することによって、明らかにすることが可能なのではないかととも思われた。日本では1990年代以降、制度史中心の教育史を乗り越える試みとして盛り上がりを見せた教育社会史であるが、学校制度をはじめとした諸制度を検討することによって制度史的な関心に収まらないものが見えてくるのではないだろうか。その広がりを感じたセッションであった。

連絡事項

皆様のご協力のおかげで、新しい方や院生の方も増えてきました。本研究会は、いろんな領域の研究者が集まって議論することを大事にしている会です。さまざまな方に興味を持っていただける企画を立てていこうと思っておりますので、ぜひ皆様からの忌憚のないご意見、企画をお待ちしております。

また引き続き、研究活動の活性化のためにも、ぜひ、教育の歴史に関心のある院生さんをご存知の方がいれば、この研究会を紹介していただければと思います。

この点に関わらず、ご意見等ございましたら、下記の連絡先までお寄せ頂ければと思います。

また、『通信』IIは年一回発行で大会報告を行う予定ですが、研究会メンバーが執筆された著書や留学体験などの情報・記事も載せていきたいと考えておりますので、何かございましたら遠慮なく、お知らせください。

問い合わせ先

メンバー登録・企画に関する連絡先

岩下 誠 (いわした あきら) 青山学院大学・教育人間科学部

☎150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-4 ☎03-3409-8967 (研究室直通)

✉iwashita@ephs.aoyama.ac.jp

『通信』IIに関する連絡先

三時真貴子 (さんとき まきこ) 広島大学・教育学研究科 教育学講座

☎739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1 ☎082-424-6737 (研究室直通)

✉msan@hiroshima-u.ac.jp